

5.2 (PP-2) コンピューターを利用したマッチメイキングプロジェクト

本節では本パイロットプロジェクト（PP-2）の実施結果について述べる。まず、1)同プロジェクトの提案に至った論拠、2)提案の前提条件、3)同プロジェクトの目的、4)プロジェクトの対象・受益者について明確にする。次に、5)同プロジェクトの実施体制、6)活動内容と進捗状況、7)実施スケジュール、8)パイロットプロジェクトの成果の検定方法について記述する。最後に、9)同プロジェクトの今後の方向性についてマッチメイキング担当分野とコンピューターの最適運用システムについて述べる。

5.2.1 パイロットプロジェクト提案の論拠

ハンガリーにおいては企業情報のデータベース（DB）がいくつか作られており、いずれも CD-ROM やホームページ内 DB の形で収録されている。これらの内、特に中小企業情報を集録した“Mentor”と呼ばれる DB がある。“Mentor”は 1998 年に MVA が Phare EC Program の援助により作成された DB で現在、経済省内のイントラネットのみで使用されている。“Mentor”にはハンガリーの中小企業 1,500 社の企業情報が製造業のセクター別に分類された形でハンガリー語で収録されている。この他に調査団が入手した企業情報を集録した CD-ROM に次のものがある。

1) HUNGARIAN SUBCONTRACTING DIRECTORY 2000

出版：ITD-H、作成：Multi-bridge Ltd.、協賛：PHARE EC Programme

“Mentor”の一部企業の英語・フランス語・ドイツ語版、ただし掲載企業数は約 800 社で対象業種は電気・電子産業、金属加工・機械産業が主となっている。

市販されており、誰でも入手が可能。

2) MAJOR COMPANIES IN HUNGARY, The book on the CD-ROM 2000

出版：HOPPENSTEDT BONNER

掲載企業数：18,000 社、対象企業：全産業（農業、サービス業も含む）、零細は除外。英語、ハンガリー語、ドイツ語版がある。

3) その他、HPC でも独自の企業情報を格納した DB を持っている。

今後これらの企業情報を活用してビジネスのリンケージを促進していかなければならない。本パイロットプロジェクトでは、データベースとインターネットを利用した下請け契約促進方法を提案した。

下請け契約におけるサプライヤーの情報は、特に“Mentor”にまとめられており、各企業がどのような製品を生産供給できるかは知ることができる。しかしバイヤー側から

の購入希望部品情報はデータベースにまとめられたものはない。本来下請け契約促進にはバイヤーの需要情報とサプライヤーの供給情報が双方向に流れて初めて効果が上がるものである。この観点から本パイロットプロジェクトでは、サンプル的にバイヤーの需要情報をデータベース化し、サプライヤー側にそれを流し反応を試すことを提案した。更に部品等供給に興味を示したサプライヤーと当該部品の需要情報を出したバイヤーに働きかけ、双方のマッチメイキング（商談開始、相互工場訪問等）を催すことを目的とした。

サプライヤー情報として“Mentor”を使用した。バイヤー情報は上記 2)の MAJOR COMPANIES IN Hungary, The book on the CD-ROM 2000 を使用し、現地および多国籍企業 650 社を抽出した。

5.2.2 パイロットプロジェクトの前提条件

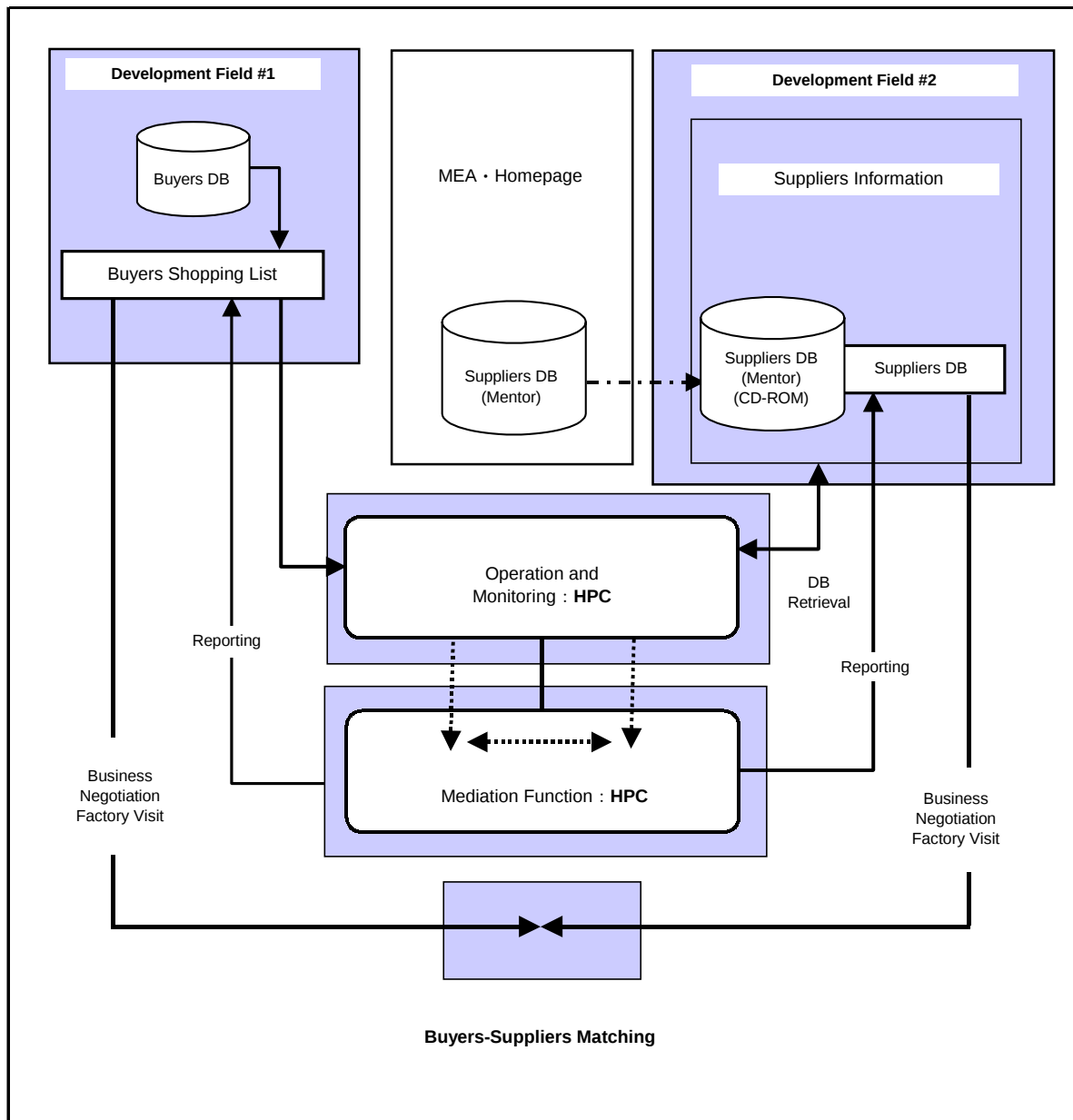
本パイロットプロジェクト実施にあたり、以下の前提条件を設定した（図 5.2-1 参照）

- (1) 既存のコンピューター資源を有効に活用すること。これは同プロジェクト実施に際して新たに経済省のコンピューターシステムを追加導入することなく、既存システムのディスクの空き容量を利用してホームページおよびデータベースを構築することを前提とした。
- (2) “Mentor”に格納されている既存のサプライヤーデータベースのコピーを作成、PP-2 用“Mentor”として使用する（DB の著作権の問題もあり、オリジナル“Mentor”に変更は加えない）。このコピーしたデータベースの情報を必要に応じて更新、または追加して使用する。追加情報として、HUNGARIAN SUBCONTRACTING DIRECTORY 2000 の英語版を従来の“Mentor”内 DB に構築することとした。ただし、英語版の追加構築に際しては、パイロットプロジェクト期間内に終了することは困難であることも予想されたので、作業期間内に可能な限りの範囲内で作業をすることを前提とした（図 5.2-2 参照）。
- (3) 本パイロットプロジェクトの最大の目的は、新たにバイヤーの調達したい部品情報を入手（将来は経済省のホームページにデータベースとして掲載）し、これらを検索した HPC の担当者が一方的にサプライヤーに E-mail、自動ファックス転送

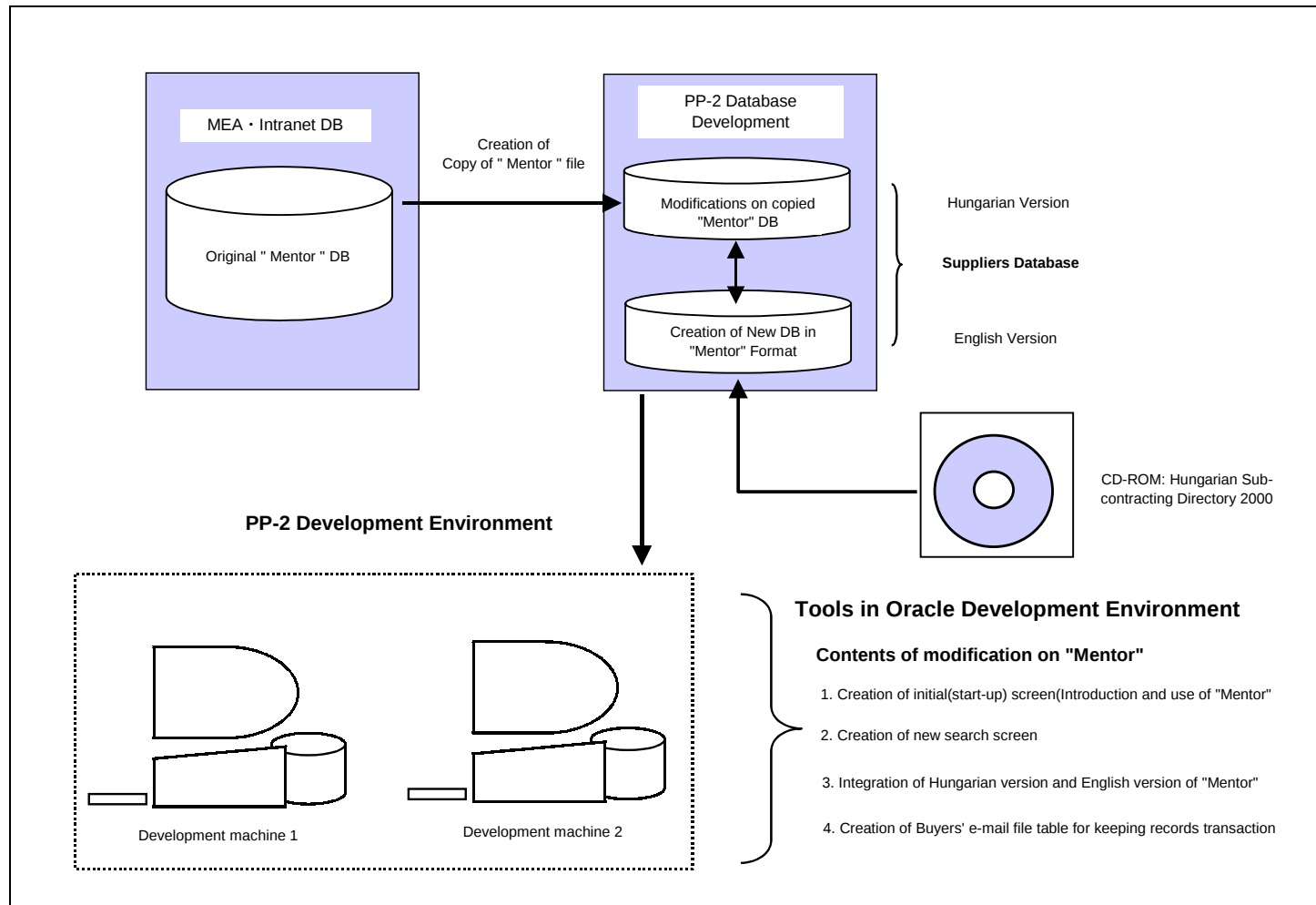
システム、または郵送によりバイヤー情報を転送し、マッチメイキングの場を設定することである。

- (4) 本パイロットプロジェクトの最大のポイントは、バイヤー・サプライヤー間の最終的なマッチメイキング（工場訪問設定、商談開始等）のプロセスを人を介して行なうということである。コンピューターに格納される双方のデータベースはあくまでもマッチメイキングを取り持つまでの手段に過ぎない。世界的に電子商取引が行なわれている昨今、コンピューターのみを媒体とした取引がほとんどである。本プロジェクトにおいては、コンピューターに蓄積された情報をベースに、バイヤーとサプライヤー間の最終的な介在は人手によって行なうということを最大の特徴とした。その理由は、多くの国でデータベースをインターネット上に開放する試みは行われているが、人を介したフォローアップがされないため、有効活用に至っていない例が多いからである。
- (5) バイヤーから提供される部品の調達情報は、時としてバイヤーの企業機密に触れる場合もあり、これらの情報の取扱い方法が充分考慮されなければならない。また、企業によっては開示が可能な情報には限界もあり、全てのバイヤー情報をサプライヤー側に提供できない場合も生じる。この場合、バイヤー・サプライヤー側双方のマッチメイキングの担当者にはこれらの限界点を充分理解した上で、マッチメイキングの段取りを行う。
- (6) バイヤーの部品調達情報に記載される内容は、バイヤーによってその開示情報の内容が大きく異なる場合が予想された。場合によっては、会社概要のみに限定される可能性もある。従って、格納されるこれらのバイヤー情報データベースのファイル・フォーマットは統一された形になるとは限らない。

☒ 5.2-1 CONCEPTUAL SYSTEMS DESIGN OF PP-2



☒ 5.2-2 USE OF "Mentor" AND "CD-ROM DATABASE" FOR PP-2



5.2.3 パイロットプロジェクトの目的

ハンガリーの中小企業を中心とした部品産業の市場を開拓し、下請け契約の増加を図ることを目的とした。

5.2.4 パイロットプロジェクトの対象・受益者

中小規模の部品製造業（サプライヤー）と国内部品調達を増やしたい多国籍および国内大企業（バイヤー）を対象受益者とした。

5.2.5 パイロットプロジェクトの実施体制

5.2.5.1 パイロットプロジェクトの実施スケジュール

図 5.2-3 に本パイロットプロジェクトの活動内容と全体スケジュールを示した。スケジュールはコーディネーション・マッチメーカー担当（A チーム）とシステム開発担当（B チーム）に分けた。各チームの業務分担は以下のとおりである。

（A チーム担当業務）

- ・バイヤーリストの作成
- ・バイヤーのショッピングリストのファイルフォーマット作成
- ・PP-2 のバイヤーおよびサプライヤーに対する協力依頼状の作成と発送
- ・バイヤーへのフォローアップ
- ・バイヤーからの回答に応じたサプライヤーの産業セクター別分類
- ・サプライヤーへのバイヤー情報転送
- ・サプライヤーおよびバイヤーへのコンタクト
- ・マッチメーカー業務（双方工場訪問、商談開始）

（B チーム）

- ・既存データベースの解析
- ・システム開発におけるマシン環境の調査と開発環境の整備
- ・システム設計
- ・データベースの解析・構築
- ・画面フローの作成
- ・各画面（初期立上げ画面、検索画面）の詳細設計
- ・プログラム開発
- ・テストと移行